

一般用

H₂ブロッカー胃腸薬

ファモガスOD錠10

- ・3日間服用しても症状の改善がみられない場合は、服用を止めて、この文書を持って医師又は薬剤師に相談してください。
- ・2週間を超えて続けて服用しないでください。
(重篤な消化器疾患を見逃すおそれがありますので、医師の診療を受けてください。)

特徴

「ファモガスOD錠10」は、胃痛、胸やけ、もたれ、むかつきの原因となる胃酸の出過ぎを制御し、胃粘膜の修復を早める胃腸薬です。

本剤は口の中の水分で速やかに崩壊する、水なしでも服用できる口中崩壊タイプのお薬です。



使用上の注意

⊗してはいけないこと (守らないと現在の症状が悪化したり、副作用が起こりやすくなります)

- 次の人は服用しないでください
 - ファモチジン等のH₂ブロッカー薬によりアレルギー症状(例えば、発疹・発赤、かゆみ、のど・まぶた・口唇等のはれ)を起こしたことがある人。
 - 医療機関で次の病気の治療や医薬品の投与を受けている人。
血液の病気、腎臓・肝臓の病気、心臓の病気、胃・十二指腸の病気、ぜんそく・リウマチ等の免疫系の病気、ステロイド剤、抗生物質、抗がん剤、アゾール系抗真菌剤
(白血球減少、血小板減少等を起こすことがあります。)
(腎臓・肝臓の病気を持っている場合には、薬の排泄が遅れて作用が強くあらわれることがあります。)
(心筋梗塞・弁膜症・心筋症等の心臓の病気を持っている場合には、心電図異常を伴う脈のみだれがあらわれることがあります。)
(胃・十二指腸の病気の治療を受けている人は、ファモチジンや類似の薬が処方されている可能性が高いので、重複服用に気をつける必要があります。)
(アゾール系抗真菌剤の吸収が低下して効果が減弱します。)
 - 医師から赤血球数が少ない(貧血)、血小板数が少ない(血が止まりにくい、血が出やすい)、白血球数が少ない等の血液異常を指摘されたことがある人。
(本剤が引き金となって再び血液異常を引き起こす可能性があります。)
 - フェニルケトン尿症の人(本剤はL-フェニルアラニン化合物を含んでいます。)
 - 小児(15歳未満)及び高齢者(80歳以上)。
 - 妊婦又は妊娠していると思われる人。
- 本剤を服用している間は、次の医薬品を服用しないでください
他の胃腸薬
- 授乳中の方は本剤を服用しないか、本剤を服用する場合は授乳をさけてください



相談すること

- 次の人は服用前に医師又は薬剤師に相談してください
(1) 医師の治療を受けている人又は他の医薬品を服用している人。(2) 薬などによりアレルギー症状を起こしたことがある人。(3) 高齢者(65歳以上)。(4) 一般に高齢者は、生理機能が低下していることがあります。(5) 次の症状のある人。のどの痛み、咳及び高熱(これらの症状のある人は、重篤な感染症の疑いがあり、血球数減少等の血液異常が認められることがあります。服用前にこのような症状があると、本剤の服用によって症状が増悪し、また、本剤の副作用に気づくのが遅れることがあります。)、原因不明の体重減少、持続性の腹痛(他の病気が原因であることがあります。)
- 服用後、次の症状があらわれた場合は副作用の可能性があるため、直ちに服用を中止し、この文書を持って医師又は薬剤師に相談してください

| 関係部位 | 症 状 |
|-------|--|
| 皮膚 | 発疹・発赤、かゆみ、はれ |
| 循環器 | 脈のみだれ |
| 精神神経系 | 気がとおくなる感じ、ひきつけ(けいれん) |
| その他 | 気分が悪くなったり、だるくなったり、発熱してのどが痛いなど体調異常があらわれる。 |

まれに下記の重篤な症状が起こることがあります。その場合は直ちに医師の診療を受けてください。

| 症状の名称 | 症 状 |
|---|---|
| ショック (アナフィラキシー) | 服用後すぐに、皮膚のかゆみ、じんましん、声のかすれ、くしゃみ、のどのかゆみ、息苦しさ、動悸、意識の混濁等があらわれる。 |
| 皮膚粘膜眼症候群 (スティーブス・ジョンソン症候群) 中毒性表皮壊死融解症 | 高熱、目の充血、目やに、唇のただれ、のどの痛み、皮膚の広範囲の発疹・発赤等が持続したり、急激に悪化する。 |
| 横紋筋融解症 | 手足・肩・腰等の筋肉が痛む、手足がしびれる、力が入らない、こわばる、全身がだるい、赤褐色尿等があらわれる。 |
| 肝機能障害 | 発熱、かゆみ、発疹、黄疸(皮膚や白目が黄色くなる)、褐色尿、全身のだるさ、食欲不振等があらわれる。 |
| 腎障害 | 発熱、発疹、尿量の減少、全身のむくみ、全身のだるさ、関節痛(節々が痛む)、下痢等があらわれる。 |
| 間質性肺炎 | 階段を上ったり、少し無理をしただけでも息切れがする・息苦しくなる、空っぽ感、発熱等がみられ、これらが急にあらわれたり、持続したりする。 |

(裏面もご覧ください。)

| 症状の名称 | 症 状 |
|-------|---|
| 血液障害 | のどの痛み、発熱、全身のだるさ、顔やまぶたのうらが白っぽくなる、出血しやすくなる（歯茎の出血、鼻血等）、青あざができる（押しても色が消えない）等があらわれる。 |

- 誤って定められた用量を超えて服用してしまった場合は、直ちに服用を中止し、この文書を持って医師又は薬剤師に相談してください
- 服用後、次の症状があらわれることがありますので、このような症状の持続又は増強がみられた場合には、服用を中止し、この文書を持って医師又は薬剤師に相談してください
便秘、軟便、下痢、口のかわき

【効能・効果】

胃痛、胸やけ、もたれ、むかつき（本剤はH₂ブロッカー薬を含んでいます）

《効能・効果に関連する注意》

効能・効果に記載以外の症状では、本剤を服用しないでください。

【用法・用量】

胃痛、胸やけ、もたれ、むかつきの症状があらわれた時、下記の1回の量を、口中で溶かして服用するか、水又はお湯で服用してください。

| 年 齢 | 1 回 量 | 1日服用回数 |
|------------------|------------|--------|
| 成 人（15歳以上、80歳未満） | 1錠 | 2回まで |
| 小 児（15歳未満） | 服用しないでください | |
| 高齢者（80歳以上） | | |

- ・服用後8時間以上たっても症状が治まらない場合は、もう1錠服用してください。
- ・症状が治まった場合は、服用を止めてください。
- ・3日間服用しても症状の改善がみられない場合は、服用を止めて、医師又は薬剤師に相談してください。
- ・2週間を超えて続けて服用しないでください。

《用法・用量に関連する注意》

- (1) 用法・用量を厳守してください。
- (2) 本剤は口中で容易に崩壊しますが、口中の粘膜からは吸収されませんので、口中で溶かした後、唾液で飲み込むか、水又はお湯で飲み込んでください。通常の錠剤と同様、そのまま水又はお湯で服用しても効果に変わりはありません。
- (3) 本剤を服用する際は、アルコール飲料の摂取は控えてください。
（お薬はアルコール飲料と併用しないのが一般的です。）

【錠剤の取り出し方】

右図のように錠剤の入っているPTPシートの凸部を指先で強く押し、裏面のアルミ箔を破り、取り出して服用してください。

（誤ってそのまま飲み込んだりすると食道粘膜に突き刺さる等思わぬ事故につながります。）



【成分・分量】

本品は白色～微黄白色の素錠です。

| 成 分 | 分 量（本品1錠中） | はたらき |
|--------|------------|-----------------|
| ファモチジン | 10mg | 胃酸の出過ぎをコントロールする |

添加物として、D-マンニトール、メタケイ酸アルミン酸マグネシウム、β-シクロデキストリン、ヒプロメロース、水アメ、メチルセルロース、グルコノ-δ-ラクトン、ℓ-メントール、クロスビドン、アクリル酸エチル・メタクリル酸メチルコポリマー、ポリオキシエチレンノニルフェニルエーテル、アスパルテーム(L-フェニルアラニン化合物)、香料、タルク、ステアリン酸マグネシウムを含有します。

【保管及び取り扱い上の注意】

- (1) 直射日光の当たらない湿気の少ない涼しい所に保管してください。
- (2) 小児の手の届かない所に保管してください。
- (3) 他の容器に入れ替えないでください。（誤用の原因になったり品質が変わります。）
- (4) 使用期限（外箱に記載）を過ぎた製品は服用しないでください。

この薬は決められた時間ごとに服用する薬ではなく、症状が出た時に服用するお薬です。食事による影響はありませんので、食前・食後・食間いつ服用いただいても結構です。1回1錠で約8時間胃酸の出過ぎをコントロールしますので、1日2回服用する場合は8時間以上あけてください。

副作用被害救済制度のお問い合わせ先

（独）医薬品医療機器総合機構

http://www.pmda.go.jp/kenkouhigai_camp/index.html

電話：0120-149-931（フリーダイヤル）

本製品についてのお問い合わせは、お買い求めのお店または下記にお願い申し上げます。
連 絡 先：新新薬品工業株式会社 お客様相談室
電 話：076-435-0878
受付時間：9:00～17:00（土、日、祝日を除く）

販 売 元 新新薬品工業株式会社
富山県富山市今市324番地
製造販売元 シオノケミカル株式会社
東京都中央区八重洲2丁目10番10号